

平成28年度決算の概況

(1) 総括事項

近年、下水道事業を取り巻く環境は大規模地震や短時間集中豪雨などの自然災害の激甚化、老朽化する下水道施設の更新需要の大幅な増加など、大きく変化をしています。この変化に適切に対応するため、従前の経営計画を見直し、平成28年度から平成37年度の10年間の新しい「岡山市下水道事業経営計画2016」を平成28年3月に策定しました。

平成28年度においてはこの新たな経営計画に基づき事業を実施し、建設改良事業では未普及対策や浸水対策、耐震・長寿命化対策などのハード対策事業を行いました。また、全国的にゲリラ豪雨が増加し、岡山市でも浸水被害が多発する中、住民の方に日ごろからの備えや避難行動に役立てていただき浸水被害の軽減を図ることを目的として平成28年6月に内水ハザードマップを作成しました。さらに、市民が安全で安心して暮らしていける社会の実現を目指して「岡山市浸水対策の推進に関する条例」を策定しました。

今後とも、新たな「経営計画2016」に基づき持続的な運営を行い、市民の生活環境や水環境の改善、浸水被害の軽減を図り、快適で安心・安全なまちづくりへ貢献していきます。

ア 下水道の普及状況

事 項	平成28年度	平成27年度	増 減	対前年度比(%)
処理区域内人口(人)	475,319	470,866	4,453	100.9
汚水処理戸数(戸)	152,570	149,703	2,867	101.9
年間有収水量(千 m^3)	51,943	51,690	253	100.4
普及率(%) ※1	66.1	65.5	0.6	—

※1 以外は農業集落排水事業を含む。

イ 建設改良事業

a 未普及対策

① 汚水管幹線工事

旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区においては、尾上幹線・笹ヶ瀬左岸幹線などの整備に、旭川以東の岡東処理区においては、西大寺幹線の整備に取り組みました。

② 面的整備工事

庭瀬・妹尾・撫川・久米・横井上・檜津地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区などの整備や、江並・高屋・桑野・東平島・高島新屋敷・乙多見・西大寺射越地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区などの整備に取り組みました。

b 浸水対策

浸水被害の軽減を図るため、西排水区、浦安排水区等の雨水渠整備に継続的に取り組むとともに、芳田排水区の雨水管整備を行いました。

c 耐震化・長寿命化対策

国の長寿命化支援制度を活用した天瀬ポンプ場及び錦ポンプ場の改築更新ならびに旭西排水センターの放流渠耐震化に取り組みました。

また、老朽化した管きよの更生工事及び重要な幹線管きよの耐震診断にも取り組みました。

ウ 維持管理

本年度は約 6,300 万³m³の汚水を処理するとともに、市街地の雨水を排除しました。処理場やポンプ場においては日常の管理の中でコストを意識した運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。また、管きよについても計画的に点検調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

エ その他の取り組み

平成 27 年度から実施している地震などの災害に備えた下水道 BCP(業務継続計画)の現地訓練ではより実践的な訓練形式を導入し、内容の高度化を図りました。また、下水道への接続を促進するため平成 24 年度から実施している水洗便所改造等補助金においては補助額を拡充し、補助事業の効果を高めました。さらに下水道事業の新たな広報を推進するため、マンホールカードの作成や、新たに設置した広報戦略推進班において下水道ポスターを作成するなど、下水道事業の PR に努めました。

オ 財政状況

本年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益 20,119,605 千円に対し、事業費用 20,119,605 千円で、この結果、収支差引 0 円となりました。

次に、資本的収支では、収入額 16,358,529 千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額 184,738 千円を除くと、当年度の収入が 16,173,791 千円、これに対する支出額 22,561,933 千円となり、この結果、収支差引 6,388,142 千円の不足額を生じましたが、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を性質別に示したものです。

